

# こころのお便り

杉並区立高井戸第四小学校

校長 本橋 忠旗

指導教諭 早川 宏（たかし教室教員）

## 1. せっかく始めた習い事…でも「やめたい」

- ◎ 子供が「どうしてもやりたい!」と言って始めた習い事。ところが、しばらくして子供は「やめたい…」と言い出す。子供に理由をたずねると、「飽きた」「つまらない」とのこと。これに対して大人は、「えーっ? 自分からやりたいって言ったのに」「高い月謝払っているのに」「自分で決めたことだから、簡単にやめてはいけない」などと言い返すことになるでしょう。



- ◎ 「簡単にやめる癖がつくと、大人になっても何をするにも中途半端になってしまわないか」と心配される方がいらっしゃるでしょう。しかし、そもそも子供は「飽きっぽい」「移ろいやすい」ものです。大人の成長はほぼ完成されています。しかし、子供は、当然成長は未完成なので、様々なことを経験し、刺激を受けたり学んだりして成長していきます。

◇子供は、好奇心旺盛で、いろいろなことに興味をもち、「やってみたい!」と思う。しかし、いろいろなことに興味をもつことは、「飽きる」「興味が移りやすい」ことにもつながります。

◇いろいろ体験して、うまくいったりいかなかったりして、自分に合うもの、合わないもの、自分のやりたいもの、個性や特性のようなものが徐々にわかってくる。そのことで「自己理解」や「自己肯定感」が育っていき、大人になるための準備を進めていきます。

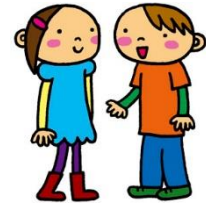
- ◎ 子供は、「興味を持つ」→「集中する」→「飽きる」を繰り返して成長していきます。これはごく自然なことです。子供が習い事を「やめたい」と言ってきた場合、「もったいない!」よりも、これまでの頑張りを讃えた上で、やめるのもよいと思います。短期間でも「熱中した」「打ち込んだ」という事実は残るわけで、そのことは成長にはプラスです。
- ◎ そうは言ってもやはり、「簡単にやめる癖がつくと、大人になっても何をするにも中途半端になってしまわないか」と大人は心配するでしょう。しかし、子供時代に、強制されたものではなく、自分の興味関心に素直に従い徹底的に「熱中した!」「打ち込んだ!」という経験があるかどうか、今はいろいろと心配なことが多くても、自己理解や自己肯定感が育ち、その後の学業や仕事、対人関係作りや生活全般への取り組みにも大きく影響します。

長続きするかどうかはさておき、子供がやってみたいことをどんどんチャレンジできるように、応援しお手伝いしていくことが大切ですね。



(裏面へ)

## 2. 今こそ「相談する力」を！



- ◎ 子供が、今までは大人の手を借りなければできなかったことが、自分一人の力でできるようになった！ これは大人としては、すごく嬉しいですね。こうして子供が自立に向けて一人であることが増えてくると、ますます成長が楽しみになり、さらに「自分の力で頑張れ！」と子供に求めていくことでしょう。
- ◎ しかし、子供には一人一人に特性があり、ちゃんと自分でできることもあれば、どんなに頑張ってもなかなかできないこと、うまくいかなくなることもあります。自分でできているうちはいいですが、できないこと、うまくいかないことがあるときに、問題を抱え込んで事態が悪化したり、ストレスをためて心身の健康を害したりすることになってしまふことがあります。
- ◎ 時代の変化とともに、自己理解がしっかりできて、自分のできることとできないことの判断が的確にでき、できることについては能力や個性を發揮し、自分には難しいと判断したことについては、適切に人に相談したり手伝ってもらったりして取り組んだり切り抜けたりする能力が求められるようになっていきます。
- ◎ しかし、困っていることがあるのに相談することがなかなかできなくなっている傾向が子供にも大人にもあるように感じられます。相談することは、結構難しく、勇気も必要なようです。では、子供の相談する力を育てるためにはどうしたらよいか。

キーワードは「安心感」です。

◇ちょっとだけ手伝ってもらえる経験    ◇ほめてもらう経験    ◇労をねぎらってもらえる経験  
◇見ていてもらえる経験    ◇声をかけてもらえる経験    ◇話を聞いてもらえる経験  
◇会話やおしゃべりが楽しめる経験    ◇認められる経験



この経験＝「安心感」を感じることを積み重ねる



「伝えたい気持ち」「表現したい気持ち」



「相談する力」



「自分でできる力」と「相談する力」とをバランスよく育てていきたいですね。